安曇野市
公民館報
No.66 [2022.12.21]
安曇野市中央公民館 ☎71-2466

・表紙「令和４年度安曇野市文化祭」…… p.1
・安曇野を知る１枚「抱擁道祖神（明科）」…… p.1
・地域文化祭（穂高・三郷）…… p.2
・地域文化祭（堀金・明科）…… p.3
・地域文化祭（豊科）…… p.4
・とよしな de ロゲイニング…… p.4

令和４年度安曇野市文化祭

安曇野市内５公民館で10月下旬から11月上旬にかけて菊花展・作品展示・芸能発表会などが開催され、多くの方が訪れました。この展示作品の中から選ばれた作品が、３月に豊科交流学習センター「きぼう」で開催される安曇野市総合芸術展で一堂に会して展示されます。

とよしな

豊科公民館は、10月27日から11月13日まで豊科地域文化祭を開催した。

【きぼう会場】

菊花展が10月27日から11月３日まで西回廊・中庭で行われた。15人が142点出展し、大輪三本仕立て・ダルマ・福助・盆栽菊・懸崖菊など、各種の香しい菊が並んだ。出展者は豊科公民館の「楽しい菊作り講座」の受講者が大半を占めた。審査の結果、「楽しい菊作り講座」７年目の高木登晤さんが最優秀賞、１年目の伊藤富雄さんが優秀賞に輝いた。

書道・華道・フラワーアレンジメント・水墨画・拓本の作品展示が10月29・30日に多目的ホールで開催された。出展数は昨年より減ったが完成度の高い書や水墨画、華やかな生け花等が並び、ゆったりと鑑賞することができた。

【豊科公民館会場】

11月３日に豊科公民館ホールで芸能発表会が行われた。あづみ野太鼓保存会の勇壮な演奏を皮切りに、舞踊・文化琴・オカリナ・ジャズダンス・箏・剣舞・バレエなどたくさんの発表が行われた。コロナ禍でもたゆまず練習を続け堂々と発表したグループに大きな拍手が送られた。

11月５日に短歌大会が開催された。時間は短縮したが、講師を招き12人が参加して、充実した歌会が行われた。

11月６日には俳句大会が開催された。秀逸な句が数多くあり選者からの評が紹介された。

11月11日から13日まで写真・絵画・手工芸・彫塑等の一般展示が行われた。出展団体はアメリカンフラワー・プリザーブドフラワー・絵手紙の３団体が増えた。絵画・パンフラワー・写真・パッチワーク・手まり・マクラメ・藍染・木彫・刺繍等手の込んだ素晴らしい作品が彩を添えていた。

11月13日にはピアノリレーコンサートが文化祭の最後を飾った。子どもから大人まで31組36名の出演があり、美しいピアノの音色がホールに響き、来場者は秋の一日を満喫した。

【とよしな de ロゲイニング】

豊科公民館は10月16日豊科高家のANCアリーナ（市総合体育館）周辺を巡る「ロゲイニング」大会を開催した。

ロゲイニングとは、地図上に設定したポイントを制限時間内にできる限りたくさん回って得点数を競うスポーツである。豊科地域の運動会の代替行事として企画し、ファミリー、一般の26チーム88人が参加した。ANCアリーナでポイントと点数が示された地図が配られ、参加者たちはどのポイントを回るか相談しながら作戦を練った。制限時間は２時間半で一斉にスタートした。参加者の中からは住み慣れた地域でも普段気にも留めなかったような場所がポイントになっており、初めて知る場所があったなどの感激する感想も聞かれた。ファミリーの部の優勝は小学３年生の男子とお父さんのチームで、得点の高いポイントを効率良く回った。好天に恵まれ全員が楽しんで時間内に無事ゴールした。

安曇野を知る１枚　抱擁道祖神（明科柏尾）

安曇野の路傍に佇（たたず）む道祖神は約600体と言われ、そのうち明科地域には150体ほど確認されているそうだが、中には珍しいものがある。その一つが柏尾の抱擁（ほうよう）道祖神（かしお）だ。坂北に抜ける街道の傍らにあり、元禄時代の作とされるが詳しいことはわからない。男神様と女神様が抱き合っているこの道祖神は、縁結びの神様とも呼ばれている。

編集後記

◆「楽しい菊づくり講座」の皆さんと須坂市臥竜（がりゅう）公園の菊花展を見学に行った。菊の苗から大輪菊を育てる大変さは菊づくり講座の取材を通じて感じていた。菊に愛情を持たないと良い菊は育たないとつくづく感じた。（H・N）

◆パンデミックに加えて戦争も始まるとは。これも新たな日常か？報道は本当に真実なのか。
慣れたくない事実を聞くたびに来年の平和を願う。
（M・M）

【地域文化祭】

ほたか

「第18回穂高文化祭」が10月14日から11月13日まで穂高会館と穂高神社の2会場で開催された。

【穂高会館会場】

10月28日から30日に「総合美術展」「芸能まつり」「高齢者作品展」が開催され、3日間で約1,200人が来場した。

アリーナでは、彫刻・絵画・書道・押し花・写真・生け花・瓢箪作品・わらかご・地域に種を蒔いた先人達の紹介などや、穂高地域の小中高生の美術作品など、約350点が会場を埋め尽くした。穂高神社のステンレス彫刻「健康長寿道祖神」の作者でもある彫刻家中嶋大道（だいどう）氏の「八面大王」、安曇野ビデオクラブによる放映コーナーも会場を和ませていた。

講堂では、28日に「カラオケ発表会」が開催され、44名の方が練習の成果を発表した。29日の「芸能まつり第1部」では、詩吟・舞踊・フラ・太極拳・民謡・エアロビクスなどが観客を楽しませていた。30日の「芸能まつり第2部」では、合唱・ウクレレ・ジャズ・アルプホルン・三味線・和太鼓と小中学校児童生徒による金管バンド・吹奏楽の演奏が観客を魅了していた。

「高齢者作品展」では、絵画・水墨画・写真・手芸作品・工芸作品など、シニアの方々の力作がところ狭しと展示されていた。中でも、毎年参観者を感嘆させる爪楊枝作品は、今年は「宗徳寺」が発表されていた。

【穂高神社会場】

「盆栽・山野草展」が10月14日から16日に、「穂高人形展」が10月24日から11月13日に、「あづみ野菊花展」が10月28日から11月13日に開催され、観光客を含め、多くの方々の目を楽しませた。

みさと

三郷地域では「文化産業展」を10月22日・23日に公民館で開催し、絵画、書道、写真や公民館での講座のまとめなど総数700点が、出展者555人から寄せられ、落ち着いた中にも華やかさを感じさせる展示が、来場者を楽しませた。

展示としては初の試みとして、市内認定こども園の園児からの絵も飾られ、今回は三郷西部認定こども園の園児からそれぞれの「ひと夏の思い出」の作品が寄せられた。

会場内では、親子連れが「押絵がかわいいね」「これすごい」等と話しながら、お目当ての作品や他の展示を静かに見つめる姿が見られた。また、「菊花展」は10月31日から11月7日までの8日間開催され、12人の出品者からの68点が公民館ロビーを彩った。

来場者は、小菊盆栽やダルマ作りなど見事な菊の仕立てに感心しながら、出展者のほとんどが女性であることにも驚き、「女性の繊細な部分が生きていると思う」と話していた。

期間中、「文化産業展」には523人、「菊花展」には463人が公民館に来場した。

ほりがね

堀金公民館は、10月28・29・30日の3日間、同館で作品展と芸能発表会を併せた堀金文化祭を開催した。

【芸能発表会】

芸能発表会（芸能祭）は29日に講堂で13団体が出演して行われ305人が来場した。芸能発表会実行委員長の高橋清美さんは「体育館の改修でステージが使えないため、舞踊や吹奏楽の発表が出来ず参加団体が絞られたけれど、出演者の熱気が感じられる」と語った。子どもと大人が一緒に活動する威勢のいい「常念太鼓」や「スコップ三味線」の演舞に、艶やかな「フラダンス」可愛い「ジュニアダンス」の発表があり、爽やかな「合唱」に、穏やかな「オカリナ」「文化箏」の音色が会場を包み、枯淡な「篠笛」や「詩吟」「民謡」の調べが流れた。

【作品展】

公民館を会場にした作品展、菊花展には31団体が出展し、530人が観賞に訪れた。フラワーアレンジメント・フラワーボトルや、手芸品・写真と俳句・短歌・郷土史の研究発表が展示された。書道、絵画では社会人の作品の他、小中学校の授業の作品があり、布袋やペン立て、本棚も飾られた。作品展実行委員長の一志みゆきさんは「会場変更による設営の苦労や行事の中止が多く役員の士気高揚の難しさを感じた」と話した。

【中長距離走記録会】

6日に例年開催されてきた堀金一周駅伝の代わりに、中長距離走記録会を行い1,3km・2km・3kmの3種目に57人が挑戦した。

あかしな

第18回明科地域文化祭が11月3日から4日間、明科公民館を会場に開催された。晴天に恵まれた会場は、入口に例年と同じく菊が飾られていた。個人やグループの作品展示や講堂の発表会には、長く続くコロナ禍の影響が感じられたが、制約の多い日々の中でも地道に活動を続けてきた成果を見ることができた。展示にも工夫が見られ、特に4月に行われた歴史の塔タイムカプセルお披露目の展示物は当時の様子を知る貴重な展示であった。

初日の午後は講堂でアコーディオン奏者の柴田勲さんによる歌声サロンが行われた。スクリーンに映った歌詞を見ながら、アコーディオンの伴奏に合わせて約30人の参加者はマスク越しながら元気よく全員歌っていた。

5日のお楽しみサロンは明科高校吹奏楽部による吹奏楽アンサンブルから始まり、午後は明科高校演劇部による初めての舞台が披露された。静まり返った講堂の中で、男女二人だけの舞台は緊張感が漂っていた。続いて披露された元気な女性たちのZUMBAのリズミカルなダンスに、一緒に踊りだす子どもの姿があった。

最終日の芸能発表会は22の個人およびグループによる演目が披露された。オープニングで明南小の金管バンドの演奏を収録した映像が披露されたのは画期的だった。ただ同時に予定されていた明北小の収録がコロナで出来なかったことは残念だった。キッズダンスには多くの家族が我が子や孫の踊る姿に視線を送っていた。コロナで人と人のふれあいが難しい時期だが、頑張って活動している市民の発表の場でもある文化祭を、工夫しながら大切に続けて欲しいものだ。